

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針の中での「地域社会との交流を図り社会参加を援助する」を踏まえ、月1回の外出や買い物、他GHの方や小学校との交流を図っている。	○ 職員に地域交流の重要性を理解してもらう。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時、理念と基本方針を復唱している。職員個々のネームプレートにも入れている。	○ 理念に基きユニット独自のものをつくりあげ、目的意識を強く持つようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは外出参加の呼び掛けを面会時や電話等で呼びかけている。地域へはこちらから出向いたり、行事等のお知らせを送りグループホームへの理解を得るようにしている。	○ 廊下に理念、基本方針や重要事項を掲示している。家族へは入居時説明をしている。月1回ホーム便りを作成し配布している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地理的に町内会とは距離があり、日常的とはいえないがいつでも気軽にホーム見学ができるようになっている。運営推進会議開催後より、包括支援センターや町会長、民生委員、GH、小学校との交流機会が増している。	○

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価をユニットごとに話し合いをしその後全体での話し合いの場を持ち改善に向けて業務に取り組んでいる。	○ 評価に対しての結果を基に全体で意見交換をし新たな発見を見つけ取り組んで行く。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月ユニットでの出来事やサービス内容を話し合い、自己評価、外部評価の結果を報告し、第3者の意見と、その結果を今後に生かしている。地域の行事に参加する事が多くなった。	○ 社会で起きた事件等を話題とし当ホームでの取り組み方を全体で話し合い会議で報告してサービスの向上につなげて行く。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へホーム便りを配布し運営推進会議の開催日のお知らせをしている。又、事故報告書の提出をし、解決にむけて取り組んでいる。	○ 家族、包括支援センター、駐在所、教育福祉センター、高田町会、太陽台団地の運営推進委員にホーム便りを配布している。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を通じて制度は知っているが細部までは知りえていない、また全職員の理解にはいたっていない。	○ 外部研修及び内部研修を行い、全職員での理解を徹底する。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて理解している。日々ケアの中での観察をし言動、行動等に注意をはらっている。	○ 社会課題でもあり、重要課題でもあるので内部研修を強化していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族への説明をし質問等をうけるようにしている。	○	利用者からは日々の生活の中での観察、言動、行動、表情等で気をつけている。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族からの意見が引き出されるよう話をしている。利用者からは言動、行動、表情を観察し話し合いの機会を設けている。	○	運営推進会議での意見を反映している。またユニットで話し合いの場を設けている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に家族へ近況を報告している。熱発、転倒、通院、金銭等は家族へ一報している。	○	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明時、苦情窓口がある旨を家族に伝えている。また、何か気付いた事があればいつでも話してくれるよう日頃からお願いしている。	○	重要事項説明書に苦情窓口は掲載されており掲示もされている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同ミーティングやユニットミーティングの場を設け意見交換をしている。	○	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活活動時間帯（日勤帯）に3人勤務を確保し夜勤帯は2人勤務としている。職員の意識の中に常勤3名という事が根付いているので、急な勤務変更にも快く応じてくれる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回は職員のユニット替えは行なっているが大幅な配置替えはない。当事業所は、3ユニットつながっている為に、異動になっても顔が見れるので特にダメージは見受けられない。	○	馴染みと馴れ合いとの違いの重要性を理解し認識する。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修への参加をし研修後の報告書作成と報告の場を設けている。内部研修では年間計画を作成し月1回勉強会を行なっている。	○	研修での報告内容をユニットでどう生かせるかユニットごとにミーティングをしていく。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括内のGHと介護教室を行ったり、互いに行事参加をしたり、されたりしている。	○	
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	組織で2年に1回の海外慰安旅行やビアパーティー、忘年会、総会等があり参加している。また、公休希望ノートの活用、職員の言動、行動を観察し話し合いの機会を設ける。	○	職員がストレスを感じていた場合、気づける努力をしていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事査定時、職員の短所、長所を踏まえて話し合いの機会を持ち積極的に働けるよう取り組んでいる。また、年度末に決算賞与がある。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込み時にゆっくり話の出来る時間がある。又、ホーム内の見学、説明も行なっている。	○
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申込み時点で状態把握し、他のサービスが必要な場合はアドバイスしている。入居にあたっては、判定会議があり、その他にも管理者、リーダーで随時話し合いをしている。	○
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントシートの活用にて生活リズム、生活歴の把握に努めている。	○ 家族、本人から好きな事、物等聞けるよう働きかける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人格を尊重し人生の先輩として接している。家事参加の場面では出来る部分での働きかけをしている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人の状態を報告するとそれに基づいた新たな発見などがあり話題の拡大に繋がる。	○	
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時なるべく一緒にいる時間を多くする為にお茶やおやつを出している。また、電話等で面会への言葉を掛けている。	○	家族の役割がなくならないよう区別する事を学んでいきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	会話の中で馴染みの人たちの名前を把握し会話時の話題づくりをしている。また外出時車中から場所の説明をしている	○	
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう、体調に合わせ、なるべくリビングで過ごしてもらうようにしている。	○	上手く会話が出来ない利用者には職員が中に入り、利用者同士がスムーズに会話出来る様に努めて行く。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も電話や直接ホームに来られる家族もいる。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生会、外出、買い物等、本人の意向を取り入れている。希望がなかったときは以前喜んだ物や事柄を取り入れるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時家族や担当ケアマネより情報提供してもらっている。	個々の生活習慣等があるので職員サイドの価値観を押し付けない。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活リズムを把握してその日の心身の状態に合わせた働きかけをしている。	集団の中で孤立しないよう働きかける。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望、意見等を聞き、一人の特徴を捉えた目標設定にし細やかなサービス内容を心掛けている。	○ ケアチェック表とセンター方式の活用。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ユニットごとに職員とのミーティングで見直しをしている。その都度利用者、家族に同意書に捺印し介護計画を配布している。	○ 3ヵ月後とにケアチェックをし具体的なサービス内容を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護経過記録を毎日記録し申し送り時情報を共有している。	○	一人一人の状態がわかるように日付、時間を明確にし経過もわかるよう、継続的に行なっている。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援など家族との連携を行なっている。	○	
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町会長、民生委員、家族、包括支援センター、駐在所、教育福祉センター、小学校、他グループホームと交流を持っている。	○	
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーとの交流はあるものの、必要なケースはない。	○	
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの連携で介護教室を聞いている。権利擁護事業を利用している利用者がいる。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	併設の病院と連携が図られており、24時間体制でいつでも気軽に相談でき、協力してもらえる。
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院時は医療機関と連絡を取ると共に、退院後についての話し合いを家族も含めて行なっている。
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後の検討課題
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後の検討課題

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他へ移行する際ケア情報などの情報提供などを行っている。また、他施設に移動後見舞いを兼ねて面会に行っている。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	指示語や命令口調及び声のトーンに気をつけて接しているがまだ不足である。	○	利用者の言動を否定しない対応を心掛けると共に、その人に合った呼称で呼んでいる。個人情報などの書類は利用者の目に触れない所に保管している。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉、態度、表情などで、意思表示を確認しながら対応している。	○	家族から情報を得て一人一人の希望や好みを把握する。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の人格や人生を尊重し、その人に合わせた対応の仕方を工夫して取り組んでいる。	○	独りで出来る事、出来ない事を把握し、出来る事へは暖かく見守って行く。出来ない事は優しく手を差し伸べて行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服等の買い物への外出支援をしている。また、化粧療法も取り入れている。	○	併設の病院に来る理美容師を使用する。他、馴染みの理美容院の利用希望があれば、連絡調整等の支援を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食を取り入れたり、苦手な物には代替食を提供している。後片付けも快く引き受けてくれ積極的に行なっている。	○	職員は持参した弁当を利用者と同じテーブルで摂っている。食事前には嚥下体操を行い楽しんで食事ができる工夫をしている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等個々の希望を取り入れている、たばこも時間帯を決めている。	○	一人ひとりの身体状況に合わせて粥食、キザミ食を提供している。又、食べられないもの、嫌いな物には代替をしている。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を少なくするためにその人の排泄行動パターンを知り時間帯を決めて対応している。	○	一人ひとりの排泄パターンを介護記録に記入しており事前に誘導して失禁回数を減らしていく。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば、AM、PM、問わず、入浴可能。入浴拒否する方は清拭や足浴等を行なっている。	○	
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状態を記録に記入し、パターンの把握に努めている。寝付けない方にはソファで話しをしたりベットのそばに座り眠くなるまで付き添ったりする。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴にあわせて洗濯物たたみ、茶碗拭き、テーブル拭き、掃除等と役割を持ってもらっている。	○	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持つ事で安心する方には力量に応じて管理してもらっている。	○	トラブルが生じた時は家族に連絡し、入居者が納得行くまで支援を行なう。又地域権利擁護事業を活用している方もいる。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	洋服選びやジュース、お菓子等ほしいものがあれば積極的に外出する機会を作っている。利用者から外出の要望が頻回にある。	○	法人のバスを利用し月1回の食事会やドライブ、週1回の買い物にでかけている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法人バスを利用し、海、山、展覧会などへ出掛けている。その際家族への参加呼びかけをしている。	○	
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等の代筆や、電話応対時のお金の両替を行なっている。	○	
61	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族訪問時は出迎え、挨拶や声掛けを行なっている、お茶を提供し近況報告して、居室、ホールでゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員に研修を行い身体拘束の理解を深めてもらい、ユニットごとに話し合い、拘束のないケアを徹底している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう見守りを行なっている。察知した時には抑制せずに、付き添う等の支援をしている。	○	
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状態を把握し、常に目配り、気配りを怠らないようにし、利用者の居る所には必ず職員がいるようにしている。	○	
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生命に関わるような危険物は利用者の目のとどかない場所に保管している。	○	
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回内部研修を開いている。又、業務の中でヒヤリハットが発生した場合全ユニットで話し合いその後合同ミーティングで確認しあい、再発防止に努めている。	○	事故報告書を作成し再発防止の為の話し合いをしている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している、内部研修等で定期的に勉強会を開いている。	○	
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間想定避難訓練を年2回以上行なっている。災害マニュアルは今後作成し、運営推進会議に提案する予定である。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	プランの説明時や面会時に近況を説明すると共にわずかな変化等をお知らせしそれにとりまわった対応の仕方を説明している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の既往歴を把握しわずかな変化に気付き速やかに対応できるようにしている。異変があった場合は、管理者、ユニットリーダーへ報告義務を職員に徹底している。	○	顔色、表情、行動、言動等に常日頃から注意をはらうよう職員に話細かく記録をとるよう徹底している。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管しいつでも見れるようにしている。又朝、昼、晩、薬に仕分け時二人で確認しあい間違いのないようにしている。	○	
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しその人にあつた排泄援助を行なっている。水分や果物等の補給も忘れずにおこなっている。	○	
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には必ず口腔、義歯洗浄を行なっている。声掛けや不十分なところは一部介助している。	○	月1回歯科衛生士が来居し義歯洗浄や口腔ケアについてのアドバイスをボランティアで行なっている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っている。食の細かい方、水分摂取量の少ない方等個々に対応している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策委員会があり毎月1回開き対応マニュアル作成と勉強会をやっている。青い森病院の感染委員会にオブザーバーとして参加し、参考資料としている。	○	
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員会や環境委員会を設け、衛生管理についてマニュアルを作成して配慮している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を飾るなどして和やかな雰囲気をだし、出迎えをしている。	○	
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花や観葉植物を置いたり、建物の周囲には畑や花壇を作り季節ごとの花や作物を育てている。また、リビングにはゆったりと座れるソファを置いたり、季節に合わせた壁画を作り飾っている。	○	
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブル、椅子、ソファを置き一人一人が自由に座れるようにしている。喫煙場所や畳のコーナーもある。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時や面会時に使い慣れた物を持ち込んでもら うよう家族に働きかけている。これまで使ってい たテレビ、冷蔵庫、椅子等を置いている。	○	
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝、窓を開放して換気を行なっている。ホール には温度、湿度計を設置し、エアコンや床暖房で 温度調整を行なっている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっている。要所には 手すりが取り付けられ、車椅子対応の洗面所、ト イレを設置している。	○	
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室のドアに利用者の作品を貼って目印としてい る。トイレ、風呂の表示もしている。	○	
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	庭では花、季節の作物を育てている。玄関には椅 子を置きいつでも座れるようにしている。また、 余暇活動として裁縫や貼り絵、折り紙等個々に 合ったものを提供するようにしている。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の要望に答えて月2回位職員と一緒に買い物に出かける事がある。また、月1回は利用者全員外出、外食をしており、それが皆さんの楽しみのひとつでもある。
- ・個別に誕生会を実施したり、行事、風習に沿った食事などのほかに、希望があった時は、希望食を提供している。
- ・かえでユニットは精神疾患と認知症と合併している方が多いので、個々を認めてあげるような関わり(要求を忍耐強く傾聴する等)をしている。